

かずさの博物誌

サシバ

～上総の代表的な夏のタカ～

文・写真／成田篤彦

2014.6.20



▲カラスに追われるサシバ＝2014年5月22日 上総地方

▲脚を突き出し、カラスの攻撃をさけるサシバ
＝2014年5月22日 上総地方

上総では、海岸近くの台地の谷津田でもかつてサシバ同士の争いやえさをとる姿が見られた。しかし、近年、放棄水田が増え、徐々に房総丘陵地の奥深い谷津田一帯ではとまどき観察できる。先日は草刈り跡でアマガエルを捕食していた。

く、遠くまで届く声であった。サシバは池の豊富なモリアオガエルとそれを狙って集まるヘビ類を捕える目的で、この池の周辺の樹の中に潜んでいたのだろう。しかし、カラスに見つかり、攻撃された。だが、それを何とか逃げ切り、甲高く鳴いて、子育て中の家族に危険を伝えたのかもしれない。

曇り空だが、丘陵の斜面が新緑に彩っていた。道路わきの広い池にガマやヨシが繁茂していた。池沿いの歩道にはアオダイショウの真新しい死骸が落ち



ていた。

「コッ、コッ、コッ、コッ」とモリアオガエルの鳴き声が池の二箇所まで聞こえた。するとそれが池全体に広がり、大合唱になった。このカエルの大合唱は近年、上総ではあまり聞かれなくなった。

その時、二羽のハシブトガラスが、川沿いの山の斜面で、一羽の褐色の鳥を追っているのに気付いた。カラスより小さく、くちばしがかぎ型に曲がっている。サシバだ。カラスがサシバを襲った。サシバはカラスに両脚を突き出して、彼らの攻撃をかわした。その後、池のほとりの樹に止まった。少し間をおいて、茂みの中で「クッ、ピョー」と一声鳴いた。今まで聞いたサシバの鳴き声の中で、もっとも鋭



▲茂みに隠れたサシバ＝2014年5月22日 上総地方

サシバは、山に囲まれた、草刈りなどの手入れの行き届いた谷津田でカエル類やヘビ類などを捕えて食べる。その周辺の森に巣をかけ、繁殖する。従って、谷津田を耕作する人がいなくなれば、サシバの生息地は失われる。彼らの生存は谷津田の米作りと密接な関係がある。サシバは現在、全国的にも最も減少が心配されているタカ類の一つだ。

上総では夏に見られるタカでは数が最も多い。それに、彼らは、秋になると富津岬から集団で海を渡る。それも含めると上総の代表的なタカであることは間違いない。

memo

サシバ

タカ目タカ科

千葉県指定最重要保護生物。全長四十七～五十一センチ。本州北部以南に三月末から四月初めに渡来し、上総の丘陵地や台地の谷津田周辺で繁殖する。主に、カエル、ヘビ、バッタなどを食べる。

参考文献

千葉県の保護上重要な野生生物

二〇一一年 千葉県。